

# 水稲の生育状況（8月5日現在）と栽培上の留意点について

発信日：2022年8月8日

## 1 生育状況

8月5日現在の水稲の生育状況は、平年値(2012～2021年までの過去10年平均)と比べて、表1のとおりです。

表1 水稲の生育状況(8月5日現在)

品種	移植時期	草丈	茎数	葉色
はるみ	5月下旬から 6月上旬*	やや長い	やや少ない	同等
	6月中旬**	同等	少ない	同等
キヌヒカリ	5月下旬から 6月上旬	同等	同等	やや薄い
	6月中旬	長い	やや少ない	やや薄い
てんこもり***	6月上旬	同等	少ない	同等
	6月中旬	長い	少ない	やや濃い

\*2014～2021年までの過去8年平均との対比 \*\*2015～2021年までの過去7年平均との対比

\*\*\*2018～2021年までの過去4年平均との対比

## 2 栽培上の留意点

気象庁が8月4日に発表した1か月予報(8/6-9/5)では、気温は「高い」、降水量は「少ない」、日照時間は「多い」となっています。今後の栽培管理については、次の点に留意してください。

### (1) 出穂期

5月下旬植えのキヌヒカリ、はるみの出穂が始まっています。出穂期は、8月5日現在の生育状況と今後の気象予報から平年並みと考えられます。

### (2) 水管理

出穂期から10日後までの期間は、稲が最も水を必要とする時期なので、水を切らさないように注意します。出穂期10日後以降は、根腐れを防止し登熟向上を図るため間断かん水を行いましょ。ただし、出穂後高温が続く場合、乳白粒などの未熟粒の発生が多くなるので、かけ流しかん水（特に夜間の掛け流し）を行い、水温をできるだけ下げて水稲への負担を軽減しましょ。

### (3) 追肥

追肥は、稲の生育調整と後期の生育維持を図り、玄米の充実促進と品質向上のために必要です。梅雨明け以降は高温傾向であり、追肥を十分に施用していない場合は、粒の充実不足が懸念されます。出穂前に葉色が極端に落ちている場合は、追肥を施用してください。

### (4) 病虫害防除

#### ア 斑点米カメムシ類【写真1, 2】

カメムシ類に吸汁されると玄米に斑点が生じることがあります。カメムシ類は、畦畔等の雑草で増殖するため、除草を徹底することが有効です。ただし、出穂期頃の除草は、カメムシ類を水田に追い込むことになるため、これからの除草は行わないようにしましょ。

薬剤防除を実施するときは、粒剤を使用する場合は出穂の7日後まで、液剤・粉剤を使用する場合は出穂7～10日後までが適期です。

#### イ 紋枯病【写真3】

紋枯病は、高温・多湿条件で多発します。多発すると倒伏しやすくなるので、必要に応じて防除します。常発地では穂ばらみ期までに防除を行います。また、翌年は紋枯病に適用のある箱施薬剤を使うようにしましょう。

#### ウ 粃の褐変【写真4】

出穂期前後の強い降雨、強風及び高温の条件下では、粃枯細菌病、内穎褐変病といった病気や褐変症状が発生しやすくなります。強風が予想される場合は、深水管理で影響を受けにくくします。

#### エ イネ縞葉枯病【写真5】

イネ縞葉枯病は、ヒメトビウンカが媒介するウイルスによって発病します。イネ縞葉枯病が発生した場合、株ごと除去し、ほ場外で処分します。

#### オ いもち病【写真6】

葉いもちが発生した水田では適切な防除を行い、翌年はいもち病に登録のある箱施薬剤を使うようにしましょう。

#### カ トビイロウンカ【写真7】

8月2日現在、県内の予察灯でトビイロウンカの誘殺が確認されていませんが、トビイロウンカは増殖が早いため、8月以降、水田で急激に増える可能性があります。今後のトビイロウンカの発生状況に注意してください。水稻の株元に短翅型成虫が株あたり2～3頭以上寄生していると坪枯れの被害が予想されますので、収穫前日数に注意し、防除を実施してください。

#### キ スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）【写真8, 9, 10】

スクミリンゴガイの発生地域が拡大しています。スクミリンゴガイのほ場内への侵入を防ぐため、水口と水尻には6～9mm 目合いの網を設置しましょう。また、スクミリンゴガイの密度を減らすために、水田や水路に貝を発見したら捕殺し、ピンク色の卵(卵塊)は潰しましょう。

#### ク その他

その他の病害虫対策については、病害虫防除部が発信している「令和4年度病害虫発生予察情報」を参照してください。

[https://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/2022\\_3\\_31.html](https://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/2022_3_31.html)



ホソハリカメムシ【写真1】



斑点米【写真2】



紋枯病【写真3】



粃の褐変症状【写真4】



イネ縞葉枯病  
【写真5】



いもち病【写真6】



トビイロウンカによる  
坪枯れ症状【写真7】



スクリングガイ【写真8】



網の設置の様子【写真9】



スクリングガイの卵塊【写真10】

(5) 農作業中の熱中症に注意しましょう！

農作業中の熱中症に注意してください。熱中症の予防には日中の気温が高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等の工夫を行いましょう。のどが渇いていなくてもこまめに水分補給するとともに、帽子の着用や、汗を発散しやすい服装に心がけましょう。

高温多湿の環境下でのマスク着用は熱中症のリスクが高まりやすいです。屋外で人と十分な距離を確保できる場合は、マスクを外しましょう。

(6) 台風対策

台風の襲来が予測される場合、被害の回避、軽減のため、次の対策が有効です。

台風などの大雨の際に、水田等を見回ることは大変危険です。気象情報及び周囲の状況を十分に確認し、安全な状況になるまでは行わないようにしましょう。

ア 事前防止対策

- ・ 用排水路に詰まり等が無い点検します。定期的に清掃を行うことで、浸水及び冠水時の速やかな排水に備えます。
- ・ 台風前に水田の水を深く張り、倒伏や急性萎ちょうを防ぎます。

イ 事後対策

- ・ 損傷で茎葉からの蒸散量が多くなるので、台風通過後は湛水を保ちます。
- ・ 風台風、特に台風が北側を通過する場合は、潮風害（塩害）を受けやすいため、台風通過後、可能な場合は動噴等を利用して真水を散布し、洗い流します。
- ・ 台風通過後に病害虫が発生することがあるので、病害虫防除部の情報に注意します。

【参考】

表2 農業技術センター（平塚市）での過去10年(2012～2021年)平均値

作期	品種名	水を切ってはいけない期間	出穂期	成熟期
6月7日植	はるみ	7月26日～ 8月20日頃	8月10日	9月18日
	キヌヒカリ	7月25日～ 8月19日頃	8月9日	9月17日
	てんこもり	8月1日～ 8月26日頃	8月16日*	9月23日*
6月17日植	はるみ	8月1日～ 8月26日頃	8月16日**	9月25日**
	キヌヒカリ	7月31日～ 8月25日頃	8月15日	9月25日
	てんこもり	8月3日～ 8月29日頃	8月19日*	10月2日*

- ・ 出穂期約15日前～出穂期10日後までの約1か月間は、水稻が最も水分を必要とする時期であるため、水田の水を十分に保つようにする。
- ・ \*2018～2021年（4年平均）のデータに基づく。 \*\*2012、2015～2021年（8年平均）のデータに基づく。

問合せ先

農業技術センター普及指導部作物加工課  
平塚市上吉沢1617  
TEL：0463-58-0333 内線382～384  
FAX：0463-58-4254